



苔のむすまで

My dear,
I wish your life lasts
for thousands of years.
Until a tiny pebble grows
into a great rock.
Until the rock is covered
in green moss.

詠み人知らず

水の国、日本は苔の美しい国です。
深い森、滝や水辺。古い神社や寺院。
昔から歌に詠まれ、時の流れや森羅万象を感じさせる苔は
和の庭に使われたり「侘び・寂び」という日本人の哲学にも通じています。
苔を愛で、悠久の時を感じるの日本人独特の感性のようです。
自然を「征服する」よりも「共生する」という生き方を好んできた我々は
苔の静かな佇まいや、そのゆっくりとした成長と豊かな緑に
包み込まれるような優しさを感じるのでしょうか。

古今和歌集に「詠み人知らず」として次の歌があります。

「わが君は 千世にやちよに さゞれ石の 巖いわとなりて 苔のむすまで」
大切なあなたの命が、何千年も続きますように。
小さな石が大きな岩となり、緑の苔に覆われてしまうまで。

これが元になり、君が代という歌が作られました。

元々は、誰かが大切な人に捧げた和歌だったのですね。それから千年以上経ち、
きつとその時の石には、今頃は緑の苔が生えていることでしょう。

雨の多い季節は、苔も生き生きとしています。

水の豊かな国、日本の景色をこれからも大切にしていきたいですね。

(古今和歌集 卷七 賀哥 三四三)

花物語

比田井宗玉

